

計測器の校正は、「正確」「信頼」「安心」のJQAにお任せください。

ISO/IEC 17025に基づく校正機関として認定を受け、信頼性の高い校正サービスを提供します。

主な校正対象分野

●長さ・電気・放射線・温度・湿度・質量・硬さ・力・トルク・圧力・密度・
体積・流速・流量・音響・加速度・濃度・時間等の計測器の校正

●各種出張校正

JQA

http://www.jqa.jp

一般財団法人 日本品質保証機構

お問合せ先

計量計測センター 事業推進課 TEL.03-3416-5554
〒157-8573 東京都世田谷区砧1-21-25

IA Japan

JCSS 0092

シンワ測定株式会社 品証部は国際MRA対応JCSS認定事業者です。JCSS 0092はシンワ測定株式会社 品証部の認定番号です。

お客様の計量標準と
国家標準をトレーサブルに

弊社JCSS校正サービスの対象

直尺 2mまで
巻尺・ノギス・マイクロメーター

シンワ 測定株式会社

熱物流センター／〒959-1276 新潟県燕市小池3481番地

●営業部 TEL.0256-63-8130(代) FAX.0256-63-8134
http://www.shinwasokutei.co.jp

The Origin
Of All
Engineering

原点
技術

ネツシンが世界に誇る白金抵抗素子【Ptセンサー】は、限りなく「点」に近づくことで、高速/高精度/広温度領域の温度計測を実現します。マイクロデバイスなどのミクロの技術から、環境計測や建築などの大規模な技術まで、今やあらゆる先端技術に高精度な温度計測は欠かせません。まさに現代文明を支える「原点技術」、それがネツシンの【Ptセンサー】です。

NETSUSHIN

Ptセンサーのトップメーカー

http://www.netsushin.co.jp/

現場を見る...

多様な分野にわたるJCSS校正事業者はそれぞれの現場で技術を積み重ね信頼できる校正の重要な責務を担う。電気を主軸に校正のスペシャリストとしてさまざまな校正業務を展開する日本電気計器検定所の現場を訪ねた。

日本電気計器検定所

電気計測から広がる応用

校正を行うのが「特定校正（JEMIC）」は従来、国が実施していた電気計測の検定業務などを引き継ぐ法人として1964年に設立。86年には行政改革の一環で民間法人化している。事業の柱の一つが校正業務。電気から広げて周波数、温度、光、磁気計測の分野でも標準供給を担う。校正業務は大きく三つに分かれる。まず国家標準とつながった特定標準器や特定副標準器を用いて主にJCSS登録事業者を対象に校正サービスを行う。校正試験は東京本社のほか品目により中部、関西、九州の支社でも実施可能。このほか一般校正では標準器を搭載したトラックを3台所有し、顧客の計測器がある現場に巡回して試験も行う。JCSS校正できる品目は徐々に拡大しており、最近では2013年特定標準器は分解能100万分の1のレベルで測定可能。8月から電子部品の特性値を測定するLCRメーターなどが加わった。近年では「インピーダンス（交流電流の流れにくさ）関係の校正が増えている」（坂上ブマネージャー）。また校正業務だけでなく「セミナーやコンサル支援などトータルサポート体制があるのはJEMICならでは」（同）。JCSS校正事業者がISO/IEC 17025に基づき4年に1度、受けなければならない技能試験、一般向けの基礎セミナーまで幅広く実施。また技術相談なども含めこうした中から校正における技術課題やニーズも蓄積している。今後も「電気の計測技術を生かし、校正できる品目を増やしていく」（土山卓宏技術研究所グループマネージャー）。例えば力の分野でひずみ校正器のJCSS校正の準備も開始している。電氣量に変換できる分野を中心とし、産業界のニーズに幅広く応えていく方針だ。

JCSS校正事業者の最前線

JCSS20年のあゆみ

国内トレーサビリティ要求の高まり

1991年8月	日本国内トレーサビリティの確保	計量行政審議会答申により、計量法改正、JCSSの法制化決定
93年11月	ワシ・ストップ・テスト・ングの実現に寄与	計量法改正によりJCSS発足（21区分）
94年3月		校正事業者第一号の認定
99年12月		・認定基準ISO/IEC17025:1999に移行 ・アジア太平洋試験所認定協機構相互承認（APLAC/ MRA）署名
2000年11月	国際動向およびユーザーニーズに対応した継続的な変革	ILAC / MRA※署名 ※国際試験所認定協力機構の相互承認
01年4月		計量法改正により認定事業者の階層性導入へ
05年7月		・計量法改正により認定制度から登録・更新制度へ ・区分名称の見直し（→24区分）
06年2月		ISO9000審査機関等へのトレーサビリティ説明
07年4月		・MRA対応を希望する標準物質生産者に対し、ISOガイド34を認定基準として導入 ・認定シンボルの変更（→現在のものに）
08年11月		JCSSが15周年を迎える
10年6月		測定の不確かさにおける「信頼の水準約95%」表記対応の開始（～15年まで）
11年3月		東北地方太平洋沖地震で影響を受けたJCSS登録事業者に対する「特例省令」の発行
13年12月		JCSS20周年記念シンポジウム 開催

そして、JCSSは次のステージへ...

圧力校正を簡単にしませんか？

FLUKE Calibrationの圧力校正器は、高精度の基準圧力センサーを内蔵。重錘を使わずにデッドウェイトテスターや重錘形基準圧力計を凌駕する圧倒的な校正能力と作業効率の向上を提供します。もちろん、全ての機材がJCSS校正対応可能。

気体用ハイスピード自動圧力コントローラ/校正器

RUSKA 7250シリーズ

●レンジ：±2.5kPa～21MPa
●確 度：±0.005% of rdg.～
●媒 体：N₂、AIR等不活性ガス

液体用自動圧力コントローラ/校正器

RUSKA 7615

●レンジ：41.5MPa～275MPa
●確 度：0.01% F.S.×3レンジ
●媒 体：OIL、水、代替フロン等

気体用ハイエンド自動圧力コントローラ/校正器

DHI PPC4シリーズ

●レンジ：±15kPa～14MPa
●確 度：±0.005% rdg.～
●媒 体：N₂、AIR等不活性ガス

液体/高圧気体用自動圧力コントローラ/校正器

DHI PPCHシリーズ

●レンジ：20MPa～200MPa
●確 度：±0.012% of rdg.～
●媒 体：N₂またはAIR、OIL、代替フロン等

液体用電子式デッドウェイトテスタ

DHI E-DWT-H

●レンジ：7MPa～200MPa
●不確かさ：0.025% of rdg.
●媒 体：OIL、水、代替フロン、アルコール、シリコンオイル等

FLUKE calibration の圧力校正機器は私達がお届け致します。

株式会社 大手技研

http://www.ohtegiken.co.jp

本 社
関西営業所
テクノロジセンター

茨城県つくば市千現2-9-1
兵庫県明石市松の内2-1-8 50ヤングビル6F
茨城県かすみがうら市中台258-1

TEL 029-855-8778 FAX 029-855-8700
TEL 078-926-1178 FAX 078-926-1180
TEL 029-840-9111 FAX 029-840-9100

モノづくりの集積地「名古屋」で同時開催！

2014.4.25

難加工技術展 2014

進化する表面処理技術の総合展 表面改質展2014

Surface Structure Design Show 2014

高機能化、ハイブリット化 環境対応ヘアクセル

難加工技術展 出展対象

技術分野
難削材加工、難加工材成形、難形状加工等の技術を有する企業・団体

機械・機器周辺要素分野
難加工に関わる工作機械、鍛圧機械、工作機器、工具、測定機器、油剤、周辺システムなどを扱う企業・団体

試作市場
(試作加工受託ゾーン)

航空機関連技術ゾーン

材料分野
各種難加工材料を扱う企業・団体

試作加工に強みを持つ企業・団体及び試作関連機器が対象

航空・宇宙にかかわる技術・機器が対象

表面改質展 出展対象

技術分野
●熱処理・表面改質関連
(焼入れ、焼戻、窒化、PVD、CVD、イオン注入、プラズマ処理など)
●溶射関連
●めっき関連
●ショットピーニング
●高エネルギー加工関連
(レーザーによる表面改質など)

機械・機器周辺要素分野
●粉体塗装関連
●その他表面処理関連
●洗浄関連機器
●加工設備関連
(熱処理炉、真空炉、蒸着装置など)

測定装置分野
●精密測定装置・試験機器関連
(膜厚測定装置、AE測定装置、分光試験装置など)
●表面処理を施した部品および製品

出展募集中!!

出展申込締切日

2014年4月25日(金)

2014年7月2日(水) 3日(木) 4日(金)

会場 ポートメッセなごや (名古屋港区金城町頭2-2)

お申込み・問い合わせ先: 日刊工業新聞社 TEL 06-6946-3384 e-mail nh@media.nikkan.co.jp 会場 http://www.nikkan-event.jp/nh/